

# くらしの危険

Number

377

## 棺内のドライアイスによる 二酸化炭素中毒



ドライアイスは、食品の保冷輸送などに使われ、氷よりも温度が低く、液体にならず食品等が濡れることがないため便利な一方、取り扱いによっては事故につながるおそれがあります。

葬儀の際、ご遺体を保冷することを目的に、棺の中にドライアイスが置かれますが、ドライアイスによる二酸化炭素中毒が疑われる死亡事故の情報が消費者庁に寄せられています。



▲ 棺内にドライアイスが置かれたイメージ

?

### ドライアイス とは

- ドライアイスは二酸化炭素の固体です
- -78.5℃で固体から直接気体に変化（昇華）します
- 二酸化炭素の気体は無色・無臭です
- 低い場所に流れてたまる特性があります

二酸化炭素中毒は、**症状を自覚してから意識消失までの時間が短い**ため、自身で安全なところへ移動するなどの行動が困難です



独立行政法人  
国民生活センター

National Consumer Affairs Center of Japan



## こんな事故が起きています

### 事例 1

葬儀場において、ドライアイスを敷き詰めた棺桶の小窓を開けたそばで、意識不明の状態で見られ、搬送先の病院で死亡した。  
(令和3年5月、70歳代、宮城県)

### 事例 2

自宅において、ドライアイスを敷き詰めた棺桶内に顔を入れた状態で発見され、死亡が確認された。  
(令和2年2月、60歳代、沖縄県)



## ドライアイスを入れた棺内の二酸化炭素の濃度

◇ 棺内に、ダミー人形と約10kgのドライアイスを入れ、ご遺体の顔付近となる位置の二酸化炭素濃度の推移を調べました

### 棺のフタ **閉**

- 約20分後には「ほとんど即時に意識消失」とされる濃度を超えました
- 24時間後も高い濃度を維持していました

### 棺のフタ **開**

- フタを開けると濃度は低下
- しかし約50分後でも「ほとんど即時に意識消失」とされる濃度を維持していました

- 棺の内部は、ドライアイスを入れて間もなく二酸化炭素の濃度が人体に有害とされる濃度を超える可能性があると考えられました
- フタを開けても棺内の二酸化炭素は高濃度で維持され、空気の大きな対流が起こらない限り、長時間危険な濃度を維持することが分かりました



## 消費者へのアドバイス

### ■ 葬儀の際、ご遺体を安置する環境では



□ 棺の中に顔を入れないようにしましょう

□ 室内の換気を十分に行いましょう

□ なるべく複数人で見守りましょう

□ 気分が悪くなったらすぐに棺から離れましょう

□ 異常があれば直ちに119番通報を！！

□ 不明なことは葬儀業者に確認しましょう